

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	新しい住環境価値の創造小委員会	主 査 名：野澤 康 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画本委員会	委員長名：出口 敦 主 査 名：
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>設置目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住地として維持するためにそのまちの価値を再発見・再価値化するための「まちづくり手法」と「まちづくり活動」のあり方を議論し、一般解の導出のあり方を示す。 ・これからの都市が実現すべき都市構造や土地利用の在り方やその実現手法・コントロール手法について議論し、次世代型の都市計画（制度）など、次の議論につながる示唆を得る。 <p>2013 年度活動計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究背景・目的の共有と展開方向の議論 ・「その場所にしかない」価値を見出す視点の抽出（仮説構築） ・「その場所にしかない」居住地選び事例、まちづくり活動事例の収集、視察、類型化 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>野澤康 (工学院大学)：小委員会主査、岡絵理子 (関西大学)：小委員会幹事、桑田仁 (芝浦工業大学)：小委員会幹事、秋田典子 (千葉大学)、内田奈芳美 (金沢工業大学)、佐久間康富 (大阪市立大学)、田中友章 (明治大学)、藤井正男 (UR 都市機構)、山中知彦 (新潟県立大学)、星卓志 (工学院大学)、高鍋剛 (都市環境研究所)、加藤浩司 (有明工業高等専門学校)、木内望 (国土交通省国土技術政策総合研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s7/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	オーガナイズドセッションの実施
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3回の見学会・視察（第3回は、3月に実施予定）を行い、研究背景・目的を共有することができた。 2. 全国各地域でまちづくりの支援を行っている委員が、共有した「新しい住環境価値」の考え方にに基づき、それぞれのまちづくり事例の「その場所にしかない」価値を見出す視点を抽出した。それらの視点を整理するミニ・ワークショップを行い、仮説を構築することができた。 3. オーガナイズドセッションを通して、まちづくり活動事例の収集を進めた。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「その場所にしかない」居住地選び事例、まちづくり活動事例の収集を目指したオーガナイズドセッションであったが、委員会としての「新しい住環境価値」の考え方が十分に示せなかったこともあり、事例収集は不十分であった。 2. 来年度も再びオーガナイズドセッションを実施し、地域でのまちづくり活動事例の収集を進める必要がある。また各地に散らばる各委員ネットワークを活用した事例の収集も検討の必要がある。 3. 今年度の「新しい住環境価値」の創造には、日本建築学会所属の研究者だけでなく、経済分野などの研究者との議論も必要であることが認識された。 4. 3. と関連して、大会オーガナイズド・セッション以外にも、公開研究会や公開見学会などの場を設けて、小委員会メンバー以外との意見交換の場を積極的に設ける。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。